



DOWA

第119期 中間報告書

株主のみなさまへ

BUSINESS REPORT
2021 / 12 / Vol.62

証券コード:5714

2021年度(2022年3月期) 中間期の連結経営成績について

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、2021年度(2022年3月期)中間期における当社グループの事業の状況と経営成績をご報告申し上げます。

当第2四半期における当社グループの事業の状況につきましては、世界的な半導体不足の影響等により自動車生産台数は減少しましたが、当社への影響は軽微であり、自動車関連製品及びサービスの販売は堅調に推移しました。情報通信関連製品の販売は5G向けが増加し、また、新エネルギー関連製品の販売は、堅調に推移しました。環境・リサイクル関連サービスは廃棄物処理の受注が堅調でした。相場環境につきましては、前年同期と比較して平均為替レートは円安ドル高となり、銀や白金族金属などの貴金属及び亜鉛、銅等のベースメタルの平均価格はともに上昇しました。

このような状況の中、当社グループは「中期計画2020」の基本方針である「成長市場における事業拡大」、「既存ビジネスでの競争力強化」に基づき、企業価値向上への施策を着実に進めました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は4,232億円、営業利益は379億円、経常利益は474億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は325億円となりました。

当社グループは、今後も企業価値のさらなる向上に取り組んでまいります。株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

代表取締役社長 関口 明

2021年度中間期

売上高

4,232 億円
(前年同期比+67.6%)

営業利益

379 億円
(前年同期比+200.9%)

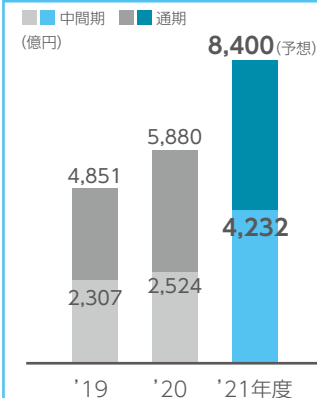
経常利益

474 億円
(前年同期比+408.7%)

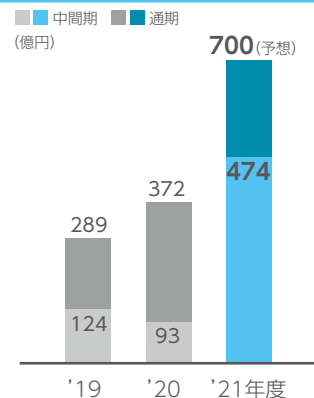
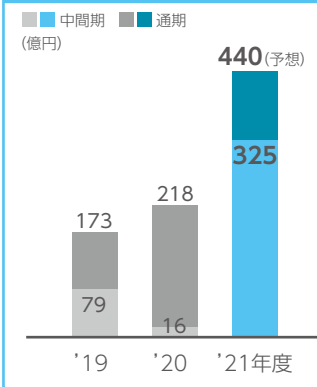
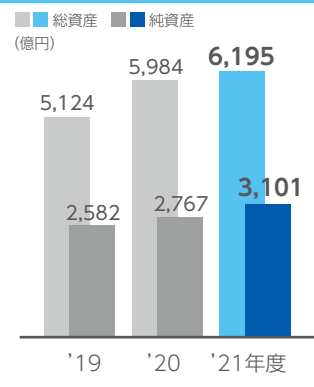
親会社株主に帰属する四半期純利益

325 億円
(前年同期比+1,916.9%)

売上高の推移



経常利益の推移 ※1

親会社株主に帰属する
当期(四半期)純利益の推移 ※1総資産および
純資産の推移 ※2

※1 21年度の通期予想には、持分法適用関連会社である藤田観光㈱の業績を反映していません。

※2 21年度の総資産および純資産については、中間期実績を記載しています。

DOWAの伸銅品事業

伸銅品事業の概要

DOWAメタルテック㈱で行っている伸銅品事業は、1919年、大阪に豊崎圧延工場を建設した時に始まります。その後、伸銅品事業強化の方針に基づき、静岡県磐田市（現DOWAメタル㈱所在地）に拡張移転しました。2007年には、同じ磐田市内に拠点を置くDOWAメタニクス㈱がグループに加わりました。DOWAメタル㈱では主に自動車・産業用途の端子材・コネクター材を生産しており、DOWAメタニクス㈱では、主に情報通信用途のリードフレーム材・コネクター材の生産を行い、両工場が生産した伸銅品の主に条をDOWAメタルテック㈱を通じて販売しています。

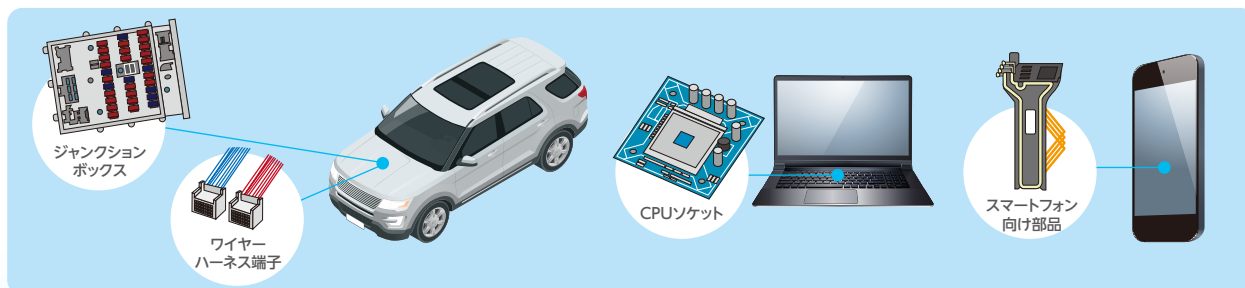
伸銅品条とは

伸銅品条とは、銅または銅に別の金属を加えた合金を、溶解鑄造し、圧延・焼鈍・洗浄を繰り返しながら、その過程で高導電性や引っ張り強さなどの機能をもたせた薄い板をコイル状に巻き取った製品で、主に電気が流れる部品などに使用されます。例えば自動車用途ではワイヤーハーネス端子、バッテリー端子、ジャンクションボックスなど、情報通信用途ではパソコン用CPUソケットやスマートフォン向け部品、半導体用リードフレームなどに使用されています。



伸銅品条

伸銅品条の用途



DOWAメタルテック㈱は、伸銅品、貴金属めっき、金属-セラミックス基板の3つの事業から成り立っています。ここでは主に銅や銅合金の板条を生産・販売している伸銅品事業をご紹介します。

自動車の電装化・EV化、 情報通信技術の伸展による伸銅品条の需要増

近年では、自動車の電装化やEV化が進み、また情報通信分野においては5Gをはじめとする高度な情報通信技術の普及により、端子材・コネクタ材の需要が高まっています。こうした需要増に対応するため、国内においては伸銅品条の生産能力拡大を進めてきました。また海外での需要増にも対応すべく、中国に2拠点(上海、南通)、タイと台湾に各1拠点を設け、現地で切断、めっき、プレス加工し、お客様にタイムリーに提供できる体制を整えています。



さらなる事業拡大へ

EVには大電流に耐えられる伸銅品条のニーズがあり、情報通信・電子部品には小型化・高密度化に対応できる伸銅品条という異なる市場ニーズがあります。これらの多様なニーズに対応するため、自動車向け伸銅品材料で大きなシェアをもつDOWAメタル㈱と情報通信・産業用途に強みをもつDOWAメタニクス㈱の設備と技術を連携活用して、両者の製品を相互生産できる体制の構築を進めています。また、2021年3月に稼働を開始した同和金属材料(南通)有限公司では、端子コネクタ接続時の負荷を低減できる低挿入力めっき加工も対応可能です。既存の同和金属材料(上海)有限公司とともに、需要拡大が見込まれる中国ローカルユーザーも含めて、製品供給を行っていきます。

伸銅品条は、私たちの豊かな暮らしを支えるために不可欠な素材です。DOWAメタルテック㈱では、今後も高機能な素材を開発し、安定供給することによってさらなる伸銅品事業の拡大と社会への貢献を目指していきます。

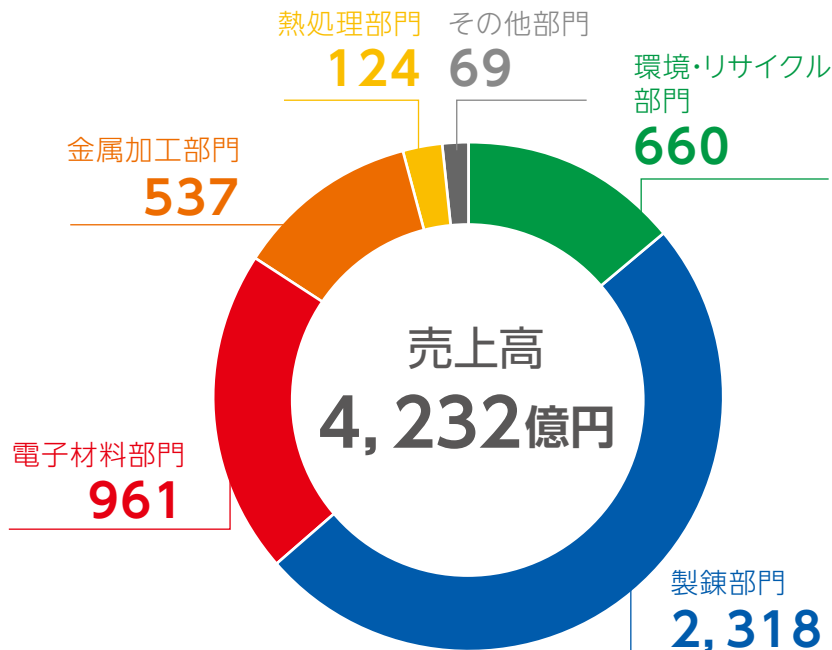


同和金属材料(南通)有限公司

部門別の営業状況

部門別連結
売上高構成
(2021年度 中間期)

※各部門の売上高には、連結調整による
消去分439億円を含んでおります。



凡例 ※'21年度の通期は見込です

— 通期売上高 — 中間期売上高 — 通期経常利益 — 中間期経常利益

環境・リサイクル部門

廃棄物処理事業では焼却の処理量及び処理単価は堅調に推移しました。また、熔融・再資源化の処理量は前年同期並みとなりました。加えて、前連結会計年度の下期より操業を開始した不燃性廃棄物の中間処理・再資源化事業が業績に寄与しました。土壌浄化事業では土壌浄化の受注が減少しました。リサイクル事業では当社製錬所向けのリサイクル原料の集荷量は減少し、家電リサイクルの処理量は増加しました。東南アジア事業ではタイやシンガポールにおいて廃棄物処理の受注が増加しました。



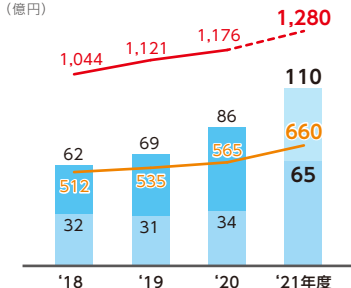
熔融・再資源化処理施設

2021年度 中間期

売上高 660 億円 (前年同期比+16.8%)

経常利益 65 億円 (前年同期比+90.1%)

(億円)



製錬部門

貴金属銅事業では銅の生産量が減少し、金や銀、すずの生産量は増加しました。PGM(白金族)事業では使用済み自動車排ガス浄化触媒からの金属回収量が増加しました。亜鉛事業では亜鉛の生産量が増加しましたが、亜鉛の棚卸資産の簿価切下額による損失幅は拡大しました。これらに加え、製錬部門は、白金族金属や亜鉛、銅等のベースメタルの平均価格が前年同期比で増加した影響を受けました。また、営業外損益では海外亜鉛鉱山の運営会社であるMINERA PLATA REAL社並びにMINERA TIZAPA社等において持分法投資利益を計上しました。



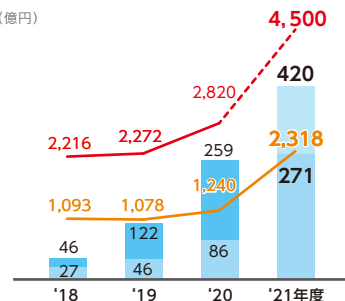
使用済み自動車排ガス浄化触媒

2021年度 中間期

売上高 **2,318** 億円 (前年同期比+86.9%)

経常利益 **271** 億円 (前年同期比+214.8%)

(億円)



電子材料部門

半導体事業では新規製品である近赤外LEDの量産販売を開始しました。また、新たに受光素子(PD)を開発し、量産販売を開始しました。電子材料事業では、太陽光パネル向け銀粉の販売が堅調に推移し、積層セラミックコンデンサ(MLCC)向け導電性アトマイズ粉の販売は増加しました。機能材料事業ではフェライト粉やキャリア粉の販売が増加しました。



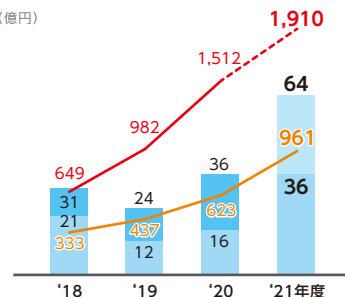
近赤外LEDチップ

2021年度 中間期

売上高 **961** 億円 (前年同期比+54.2%)

経常利益 **36** 億円 (前年同期比+125.1%)

(億円)



部門別の営業状況

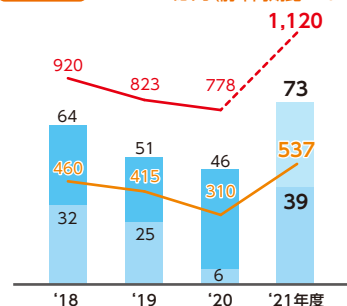
金属加工部門

伸銅品事業では前年同期に新型コロナウイルス感染症の拡大により落ち込んだ自動車向けの需要が前第2四半期以降に回復したことにより、販売が増加しました。また、第5世代移動通信システム(5G)向けの販売は増加しました。めっき事業では伸銅品事業と同様、自動車向けの販売が増加しました。回路基板事業では産業機械向けの販売は増加したものの、鉄道向けの販売が減少しました。



めっき付き伸銅品

2021年度 中間期

売上高 **537** 億円 (前年同期比+72.8%)経常利益 **39** 億円 (前年同期比+464.6%)

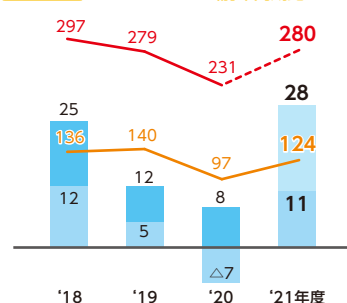
熱処理部門

熱処理事業では世界的な半導体不足の影響等により自動車生産台数は減少しましたが、当社への影響は軽微であり、販売は堅調に推移しました。工業炉事業では新型コロナウイルス感染症拡大の影響により減少していた国内外の設備メンテナンスの需要が回復しました。



熱処理加工品

2021年度 中間期

売上高 **124** 億円 (前年同期比+28.2%)経常利益 **11** 億円 (前年同期比 —)

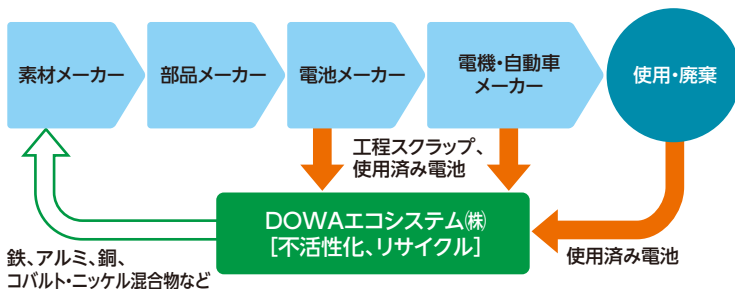
使用済みリチウムイオン電池のリサイクル事業を推進

DOWAグループでは、電化製品やHV/EVなどの自動車、住宅など様々な分野で普及が拡大しているリチウムイオン電池のリサイクル事業を推進しています。

リチウムイオン電池には多くの金属が使用されており、今後、普及に伴って使用済みリチウムイオン電池の発生が増加することから、各金属をリサイクルすることの重要性が増してきています。しかしながら、リサイクルのために電池を廃棄・解体する際には感電や発火の危険性があるため、安全で効率的な回収・リサイクル体制の整備が望まれています。

そのような社会課題の解決に向けて、DOWAエコシステム(株)では、子会社であるエコシステム秋田(株)およびエコシステム山陽(株)で使用済みリチウムイオン電池のリサイクルを行っています。両社が保有する熱処理設備では使用済みリチウムイオン電池を熱処理により安全に不活性化できるうえ、設備の受け入れ間口が広いので、大型のリチウムイオン電池も解体せずに処理することができます。さらに、2019年に稼働を開始した再資源化ラインを用いて、鉄、アルミニウム、銅、コバルト・ニッケル混合物などを分離回収することで、効率よくそれぞれを製錬原料等にリサイクルすることができます。

リチウムイオン電池は、脱炭素社会の実現に向けたエネルギーの効率的な利用に、大きな役割を果たすことが期待されています。DOWAグループでは、リチウムイオン電池を安全かつ効率よくリサイクルする事業を推進することにより、脱炭素社会の実現と資源循環型社会の構築に貢献していきます。



リチウムイオン電池の製造・不活性化・リサイクルのフロー概念図



エコシステム秋田(株)

取締役・監査役



代表取締役会長
山田 政雄



代表取締役社長
関口 明



取締役
松下 克治



取締役
川口 純



取締役
飛田 実



取締役
菅原 章



社外取締役
細田 衛士



社外取締役
小泉 淑子



社外取締役
佐藤 公生



監査役(常勤)
木下 博



監査役(常勤)
福澤 元



監査役(非常勤)
武田 仁



監査役(非常勤)
江川 茂

執行役員



執行役員
人事部長

片桐 敦



執行役員
経営企画部長

細野 浩之



執行役員
DOWAエコシステム㈱
代表取締役社長

矢内 康晴



執行役員
DOWAメタルマイン㈱
代表取締役社長

須山 俊明



執行役員
DOWAエレクトロニクス㈱
代表取締役社長

鈴木 浩二



執行役員
DOWAメタルテック㈱
代表取締役社長

鬼王 孝志



執行役員
DOWAサーモテック㈱
代表取締役社長

辻 隆治



執行役員
DOWAテクノロジー㈱
代表取締役社長

山田 潔



執行役員
DOWAマネジメントサービス㈱
代表取締役社長

若林 英一

会社概要

創業	1884年9月18日
設立	1937年3月11日
資本金	364億37百万円
DOWAグループの社員数	約7,400人
主な事業内容	環境・リサイクル事業 製錬事業 電子材料事業 金属加工事業 熱処理事業

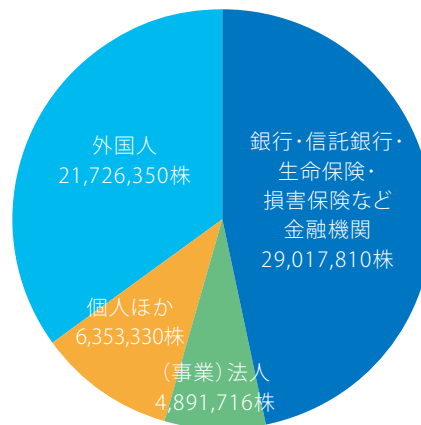
株式の状況

発行可能株式総数	200,000,000株
発行済み株式の総数	61,989,206株
株主数	9,913名

主要子会社

DOWA エコシステム(株)	環境・リサイクル事業会社
DOWA メタルマイン(株)	製錬事業会社
DOWA エレクトロニクス(株)	電子材料事業会社
DOWA メタルテック(株)	金属加工事業会社
DOWA サーモテック(株)	熱処理事業会社
DOWA テクノロジー(株)	技術サポート会社
DOWA マネジメントサービス(株)	事務サポート会社

所有者別株式分布状況



大株主

	持分比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	17.32%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	10.24%
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST	5.45%
藤田観光株式会社	3.12%
全国共済農業協同組合連合会	3.06%
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE U.S. TAX EXEMPTED PENSION FUNDS	2.93%
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) SUB A/C NON TREATY	1.88%
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103	1.66%
株式会社みずほ銀行	1.60%
日本生命保険相互会社	1.54%

当社は自己株式1,888千株を保有しており、持分比率については、自己株式を控除しています。

株主メモ

決 算 期	3月31日
定 時 株 主 総 会	6月
基 準 日	3月31日 その他必要あるときは、あらかじめ公告した日
期末配当金支払株主確定日	3月31日
公 告 方 法	電子公告 (https://www.dowa.co.jp/) ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。

株 主 名 簿 管 理 人 および特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
(郵 便 物 送 付 先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電 話 照 会 先)	0120-782-031 (フリーダイヤル)
(ホーム ページ アドレス)	https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/
(株式に関する手続き よくあるご質問)	https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal QRコードからもアクセスいただけます。



DOWAホールディングス株式会社

〒101-0021

東京都千代田区外神田四丁目14番1号 秋葉原UDX22階

電話番号 03-6847-1100

ホームページアドレス <https://www.dowa.co.jp/>

表紙撮影場所：メルテック(株)横須賀事業所

